

問1 オーストラリアの輸出構造において、1960年代には羊毛や小麦などの農産物が大きな割合を占めていましたが、近年は鉄鉱石や石炭などの鉱産資源が輸出の柱となっています。このような変化が起きた背景として最も適切な説明を選びなさい。（2019年 埼玉県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 日本や中国など、アジア諸国の経済発展と工業化に伴い、鉄鋼生産のための原料やエネルギー資源の需要が高まったため。 | 2. ヨーロッパ諸国において羊毛製品の関税が大幅に引き上げられたため、輸出先をアジア向けの鉄鉱石に完全に切り替えたため。 | 3. アジア太平洋経済協力会議（APEC）の合意により、オーストラリアは農産物の輸出を禁止し、鉱山開発に専念することになったため。 | 4. 世界的な異常気象によってオーストラリア全土で農業が衰退し、輸出できる農産物がほとんど生産できなくなったため。 |
|--|--|---|---|

問2 オーストラリアの人口密度は1平方キロメートルあたり約3人と、世界的に見ても極めて低い数値となっています。このように広大な国土に対して人口密度が非常に低い状態となっている主な要因として、内陸部の自然環境について説明したものととして最も適切なものはどれですか。（2022年 愛媛県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 国土の大部分が乾燥した砂漠や草原であり、農業や居住に適した地域が限られているため | 2. 国土の大部分が標高の高い険しい山脈で占められており、都市開発が困難であるため | 3. 国土の大部分が永久凍土に覆われた寒冷な気候であり、資源開発が制限されているため | 4. 国土の大部分が熱帯雨林に覆われており、年間を通じて降水量が多すぎるため |
|---|---|--|--|

問3 オーストラリアの輸出相手国の変化について、かつてはイギリスなどの欧米諸国が中心でしたが、近年ではアジア諸国が大きな割合を占めるようになっていきます。この変化の主な要因として、輸出品目の変化と関連付けて説明したものととして最も適切なものを次の中から選びなさい。（2023年 島根県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. アジア諸国において羊毛を用いた伝統的な衣服の需要が急激に高まったため。 | 2. 欧米諸国での人口増加にともない、羊毛や小麦などの農産物の輸出を制限したため。 | 3. アジア諸国の工業化にともない、鉄鉱石や石炭などの鉱産資源の需要が高まったため。 | 4. 欧米諸国との貿易摩擦を避けるために、輸出先をあえて近隣の島嶼国に限定したため |
|--|---|--|---|

問4 世界地図において、太平洋上のオーストラリア南東に位置するニュージーランドが、日本よりも早く日付が変わる理由として最も適切な説明はどれですか。（2016年 福岡県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. ニュージーランドは南半球に位置しており、北半球の日本とは季節が逆転しているため。 | 2. ニュージーランドは日本よりも面積が小さく、太陽が通過する時間が短いため。 | 3. ニュージーランドは日本よりも東に位置し、日付の基準となる日付変更線により近いため。 | 4. ニュージーランドを本初子午線が通っており、世界の標準時の中心となっているため。 |
|---|---|--|--|

問5 ブラジル内陸部の広大な草原地帯である「セラード」で行われた開発の背景と、その後の状況について述べた文として適切なものはどれですか。（2024年 富山県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 海底油田から得られる豊富な資金を投入し、コーヒーのモノカルチャー経済を維持するための灌漑施設が整備された。 | 2. 熱帯雨林を保護するために一切の農地転用を禁止した結果、牧草地としての利用が中心となっている。 | 3. 日本との協力によって酸性の不毛な土地を改良する開発が進められ、現在では世界有数の大豆の産地となっている。 | 4. 関税の撤廃協定を結んだ周辺諸国から安価な肥料を輸入し、サトウキビの生産に特化した大規模農園を建設した。 |
|--|---|---|--|

問6 南アメリカ大陸を、西側の太平洋沿岸から東側の大西洋沿岸まで直線的に横切った際の地形断面の特徴について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。（2025年 愛媛県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 大陸の中央部が最も標高が高く、太平洋側と大西洋側の両方の沿岸部に向かって標高が低くなる。 | 2. 西端に標高4000メートルを超える険しいアンデス山脈がそびえ立ち、東に向かうにつれて標高が低くなる。 | 3. 太平洋沿岸から大西洋沿岸まで、標高1000メートル程度のなだらかな高原が一定の高さで続いている。 | 4. 大陸の西側は広大な平地が広がり、東側の大西洋沿岸に近づくにつれて急激に標高の高い山脈が現れる。 |
|---|---|---|--|

問7 近年、世界各地で推進されているエコツーリズムの目的や考え方として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 徳島県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 自然環境を厳重に保護するため、観光客の立ち入りを全面的に禁止し、学術調査のみを行うこと | 2. 農村に長期間滞在し、伝統的な農業技術の習得や農産物の収穫体験を通じて、都市と農村の交流を図ること | 3. 大規模なリゾート開発を優先し、短期間で多くの観光客を呼び込み、地域の経済利益を最大化すること | 4. 地域の生態系を保全しながら、その価値を伝える体験学習などを通じて、環境保全と地域振興を両立させること |
|--|---|---|---|

問8 オーストラリアが旧宗主国であるイギリスなどヨーロッパ諸国との結びつきから、中国や日本などのアジア諸国との結びつきを強めるようになった背景として、最も適当な説明はどれですか。（2026年 宮崎県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 北アメリカ諸国との貿易摩擦が激化し、すべての貿易品目を食料品のに制限する政策をとったため。 | 2. ヨーロッパで産業が衰退し、工業製品の輸入元をアフリカや南米へ切り替える必要が生じたため。 | 3. イギリスのEC（現在のEU）加盟による関係変化や地理的な近さを背景に、資源や農産物の輸出先として急速に成長するアジア諸国との経済的関係を強化したため。 | 4. アジア諸国との間で関税を撤廃する広大な単一通貨圏が完成し、貿易相手をアジアだけに限定したため。 |
|--|---|--|--|

問9 オーストラリア南東部の気候について、雨温図などの資料から読み取れる特徴を述べた文として、最も適切なものを選びなさい。（2026年 滋賀県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 温帯に属し、南半球にあるため、1月付近に気温のピークがあり、降水量は年中安定している。 | 2. 冷帯に属し、高緯度にあるため、1月付近に気温のボトムがあり、年間を通じて降水量は少ない。 | 3. 温帯に属し、北半球にあるため、7月付近に気温のピークがあり、梅雨の影響で6月の降水量が多い。 | 4. 熱帯に属し、南半球にあるため、7月付近に気温のピークがあり、雨季と乾季がはっきりしている。 |
|--|---|---|--|

問10 日本の東京を通る経線と、世界の大陸の位置関係について述べた文として、正しいものはどれですか。（2022年 静岡県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 東京から真南に進むと、赤道を通過する前にユーラシア大陸の最南端に到達する。 | 2. 東京とオーストラリア大陸は経度が大きく異なるため、地図上では真南に位置しない。 | 3. 東京を通る経線を南にたどると、南半球にあるオーストラリア大陸を通過する。 | 4. 東京を通る経線は、大西洋を南北に貫き、アフリカ大陸の西側に位置している。 |
|--|--|---|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 日本や中国など、アジア諸国の経済発展と工業化に伴い、鉄鋼生産のための原料やエネルギー資源の需要が高まったため。	オーストラリアの輸出構造の変化は、世界の需要の変化と密接に関係しています。高度経済成長期の日本や、その後の中国などのアジア諸国において、工業化が進み鉄鋼業などの重工業が発展しました。その際、鉄の原料となる鉄鉱石や、燃料・原料となる石炭の需要が急増したため、広大な土地に豊富な資源を持つオーストラリアからの輸出が拡大しました。
問2	答え 1 国土の大部分が乾燥した砂漠や草原であり、農業や居住に適した地域が限られているため	オーストラリアの人口密度が低い背景には、その特殊な自然環境が関係しています。国土の約3分の2は乾燥帯に属しており、内陸部にはグレートサンディ砂漠やビクトリア砂漠などの広大な砂漠や草原が広がっています。水資源の確保が困難なこれらの地域にはほとんど人が住んでおらず、人口の大部分は気候が温暖で湿潤な南東部の沿岸都市（シドニーやメルボルンなど）に集中しています。
問3	答え 3 アジア諸国の工業化にともない、鉄鉱石や石炭などの鉱産資源の需要が高まったため。	オーストラリアはかつてイギリスの植民地であった背景から、羊毛などの農産物を主に欧米へ輸出していました。しかし、日本や中国といったアジア諸国の経済発展と工業化が進むにつれ、製鉄に必要な鉄鉱石や、火力発電の燃料となる石炭などの鉱産資源の需要が増大しました。地理的な近さもあり、現在のオーストラリアにとってアジア諸国は極めて重要な貿易相手となっています。
問4	答え 3 ニュージーランドは日本よりも東に位置し、日付の基準となる日付変更線により近いため。	時差は経度の違いによって生じます。日付変更線は、新しい一日が始まる基準となる線であり、そのすぐ西側（東経180度に近い側）に位置する地域ほど、世界の中で早く日付が変わります。ニュージーランドは日本の東側にあり、この日付変更線に近い位置にあるため、日本よりも先に日付が更新されます。南半球であることや季節の違いは、日付が変わる早さとは直接の関係はありません。
問5	答え 3 日本との協力によって酸性の不毛な土地を改良する開発が進められ、現在では世界有数の大豆の産地となっている。	ブラジル内陸部のセラードは、かつては酸性の強い土壌のため農業に適さない不毛な土地とされていました。しかし、1970年代から始まった日本との共同プロジェクト（セラード開発）による土壌改良などの近代化政策によって、世界的な大豆生産地へと生まれ変わりました。これにより、ブラジルは世界有数の農業大国としての地位を確立しました。
問6	答え 2 西端に標高4000メートルを超える険しいアンデス山脈がそびえ立ち、東に向かうにつれて標高が低くなる。	南アメリカ大陸の西端（太平洋側）には、環太平洋造山帯の一部である険しいアンデス山脈が南北に走っています。このため、大陸を東西に横断する断面図を想定すると、西側が極端に高く、東側のアマゾン川流域やブラジル高原に向かって標高が低くなっていくという特徴的な形状が見られます。
問7	答え 4 地域の生態系を保全しながら、その価値を伝える体験学習などを通じて、環境保全と地域振興を両立させること	エコツーリズムは「持続可能性」を重視しており、自然を単に消費するのではなく、保護と利用のバランスを取ることを目的としています。自然の魅力を伝えるガイドの育成や、観光による収益を自然保護に還元する仕組みなどが含まれます。農業体験を主とするものはグリーンツーリズムやアグリツーリズムに分類されます。
問8	答え 3 イギリスのEC（現在のEU）加盟による関係変化や地理的な近さを背景に、資源や農産物の輸出先として急速に成長するアジア諸国との経済的関係を強化したため。	かつてオーストラリアはイギリスとの貿易が主流でしたが、1970年代にイギリスがEC（ヨーロッパ共同体）に加盟したことで、ヨーロッパ向け貿易の優遇制度が失われました。これを機に、地理的に近く鉱物資源や農産物の需要が高まっていた日本や中国などのアジア諸国との貿易・経済的結びつきを急速に強化することとなりました。
問9	答え 1 温帯に属し、南半球にあるため、1月付近に気温のピークがあり、降水量は年中安定している。	オーストラリア南東部の気候を理解する上で重要なのは、南半球特有の季節性と、温帯の降水特性です。気温の推移が「山型」ではなく、1月が高く7月が低い「谷型」の曲線を描くのは南半球の証拠です。さらに、降水量が月間50～100ミリメートルで安定しているという事実は、砂漠が広がる内陸部とは異なり、南東部が湿潤な温帯であることを示しています。
問10	答え 3 東京を通る経線を南にたどると、南半球にあるオーストラリア大陸を通過する。	世界地図において、日本の東京（東経約140度）から垂直に南下する線は、オーストラリア大陸の西側を通ります。日本とオーストラリアは経度が近いいため、時差が少ないという特徴もこの位置関係に由来しています。他の選択肢にあるアフリカ大陸や北アメリカ大陸は、日本とは経度が大きく離れた場所に位置しています。